

武漢事務所週刊ニュース 14号 (2012年7月14日~7月20日)

武漢天地に涉外警務室を開設

7月19日 長江ネット

武漢天地自治区は外国の人が多く集まっているエリアである。外資系企業、外国領事など外国人が130人余り滞在しており、外事にかかわる業務の負担が大きくなっている。5月下旬、公安部門はこの自治区に涉外警務室を特設した。江岸公安支局の紹介によると、警務室に配備される二人の民間警備員は厳しく選抜され、二人とも公安院校の涉外専門を卒業し、英語のスピーキングは8級に達している。

武漢市公安局出入境管理处の責任者は、日増しに増えていく外国人に対し、ビザの期限切れのお知らせメールやメールでの証明手の予約など7つの住民サービスを行っている。このエリアの涉外警務室は全国に広まる可能性があるとのことであった。

フランスから武漢に来て三年になるシトロエンの幹部であるジダ氏によると、以前は居住証やビザの延長手続をするためには派出所に行くしかなく、武漢になれていない外国人にとって悩みの種であった。自治区に涉外警務室が設置されてから、下に降りるだけで証明書の手続を行うことができ、列にならぶ必要もなくなった。

ジダ氏が慣れてない中国語を使って説明したところによると、自治区内で居住証を手続することは、ホテルのチェックインをするのと同じくらい簡単であり、有効な証明書を持っていけば簡単な情報を記入するだけで完成することである。

天河空港三期工事は今月下旬に着工 3、4年以内に完成の見込み

7月19日 荆楚ネット

唐良智市長は昨日、武漢天河空港第三期建設プロジェクト指揮部指揮長会議を開催した。

会議では、天河空港第三期建設プロジェクト及び空港交通センターは今月下旬に着工し、3、4年以内に完成の見込みである。

国家発展改革委員会の回答によると、第三期建設は天河空港の2020年の見込み利用者数3500万人、貨物量44万トンに対応できるような設計になっている。新たに全長3,600m、幅60mの第2滑走路を建設するほか、37万㎡の第三ターミナルと60の機体の駐機エプロン及び付帯施設などを建設する。

空港交通センターは飛行機の利用客の出入りを行う総合的な交通ハブ地点で、航空、都市間鉄道、シティレール、長距離バス、市内バス、タクシー、乗用車の7種類の交通手段の効果的に連結させる。

空港の第三期建設プロジェクトをさらに推し進めるため、会議では、統一された指揮、統一された設計、統一された組織、統一された運営管理などを行う組織が必要であることが確認された。飛行場周辺の黄陂区及び東西湖区に臨空経済区を建設する計画であるとのことであった。